

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議/ビデオ会議・Web会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 9. No.7 2007年3月31日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2007 CNA Report Japan. All rights reserved.

ニュース項目

ポリコムジャパン、イマーシブ テレプレゼン スシステムを発表



Polycom RPX HD

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、イマーシブ テレプレゼン スソリューション「Polycom RealPresence Experience High Definition(ポリコム・リアルプレゼンス・エクスペリエンス・ハイ・デフィニション、Polycom RPX HD)」を発表。

Polycom RPX HD は、ポリコムのビデオ会議システム製品ラインナップとしてはハイエンドに位置づけられ、同室感や臨場感といったリアルな会議室環境を遠隔地と実現するため、コーデックだけではなく、映画館で使われるような大型スクリーン、HD 対応映像と音声、人間工学に基づき目線の合う会話を実現する会議室構築までを全てパッケージしたソリューション。イマーシブ(immersive)とは、現実と錯覚するほどの臨場感をいう。

席数が4名から28名までに対応する6種類の構成があり、会議室の広さや用途に応じて最適なモデルを選択する。合わせて、24時間 x365日運用・管理サービスも提供。

Polycom RPX HD は、Polycom UltimateHD のアーキテクチャーをベースにしており、コーデックは、昨年秋に発売さ

れたHD対応の「Polycom HDX 9000」を採用。RPX HD 同士の通信だけではなく、Polycom VSX シリーズなど国際標準に対応した従来のビデオ会議システムとでも通信が可能。また、多地点接続サーバ、HD 会議録音ソリューションやそれに関連するサービスなどと組み合わせて利用することも可能。さらに、Polycom SoundStation VTX 1000 で電話回線から音声のみでRPX HD のテレプレゼン ス会議に参加も可能。

8フィート(約243cm)または16フィート(488cm)のHD 対応シネマビジョン型の大型スクリーンを使用している。最大48:9 の比率で相手側の映像をシームレスに表示し、720p(最大3,840 x 720/30 fps)のHD 画質を映し出す。モデルによって2枚あるいは4枚のスクリーンを選択する。

また、スクリーンには、小型のHD カメラ(3CCD)を組み込み、相手と視線を合わせて会話することができるように独自の「Polycom EyeConnect (ポリコムアイコネクト)」技術を使っている。

音声については、天井マイク、音響用ウォールパネル、Hi-Fiステレオ機器、及び、22khzの超ワイドバンドステレオ音声技術「Polycom StereoSurround(ポリコムステレオサラウンド)」を統合することで、会話音声、CD、DVD などの音声を含むコンテンツの両方をHD ステレオ音声で相手側に送ることが出来る。「Polycom StereoSurround 音声技術は、ささやき声から大迫力の音楽までクリアに聞こえるだけでなく、遠隔地の話者の位置がわかるほどの臨場感を実現している。」(ポリコムジャパン)

マルチメディアコンテンツを高解像度で送受信でき、ユーザーのコンテンツと室内にいる人物映像の両方を同時に送信する機能がある。映像と音声による会話を可能とするだけではなく、PC などのコンテンツは個人用モニターを使いHD 品質でのデータの共有が行える。

Polycom RPX HD は、ポリコム グローバル サービスが設置及び保守サービスを提供する。また、RPX HD ユーザー向けに、ビデオ ネットワーク オペレーション センター(VNOC)による 24 時間 x365 日のサービスも用意している。Polycom RPX HD VNOC では、テレプレゼンスの専門スタッフがユーザーのコンシェルジュの役割をし、会議の予約、多地点接続、遠隔監視、月次報告などを行う。

ポリコムジャパンによると、2007 年後半より、日本向けの提供を開始する予定。

日本タンバーク、電話帳検索機能や IVR などでビデオ会議コールを簡易化する装置を発売



TANDBERG Entrypoint

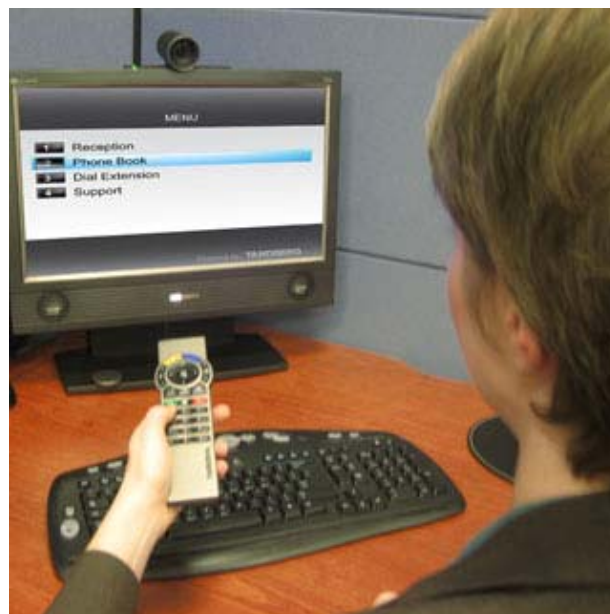
日本タンバーク株式会社(東京都港区)は、社内外のネットワークからある特定の端末へビデオ会議コールする際にその手順を簡易化する装置「TANDBERG Entrypoint(タンバークエントリーポイント)」を 3 月中旬から発売した。

TANDBERG ビデオ会議端末ユーザーは、まず TANDBERG Entrypoint にビデオ会議コールで接続することで、階層化されたメニュー画面を最初に見ることになる。そこには、接続先がテキスト文字にて番号順にリスト形式に表示され、そのユーザーは接続したい相手の番号を選択することで、IP アドレスなどを入力することなく相手のビデオ会議端末に自動で接続することが出来る。

「今回のような仕組みを従来のやり方で企業に導入する場合システムインテグレーションが複雑でコストが非常に高かった。TANDBERG Entrypoint は、従来の方法の 1/10 のコストで短期間での導入を可能とするシステムだ。相手先へのコールは IP アドレスを直接入力するなど手間がかかっ

たが、この新製品は、ビデオ会議システムの使い勝手を格段に向上すると確信している。」(日本タンバーク)

階層化されたメニューは、IVR(音声自動応答機能、Interactive Voice Response)をベースに視覚的に表示する。IVRは、顧客サービスなどでシステム音声で、電話してきた相手にメニューを説明し、電話機のダイヤルボタンでメニューを選択、必要な情報を聞いたり、オペレーターに接続したりすることを可能にする機能。TANDBERG Entrypoint は、この音声の IVR 機能を視覚化したシステムとも言える。



Entrypoint のメニュー画面をリモコンで操作選択して相手に簡単にビデオ会議コール

メニュー機能に加え、電話帳検索も提供している。TANDBERG Entrypoint が表示するメニューから電話帳検索を選択すると、検索画面が現れ、そこにビデオ会議コールをしたい相手の名前を入力、たとえば、アルファベットの”T”を入れると、T のアルファベットを含む相手先の名前が一覧で表示される。そして、先ほどのメニュー選択と同様に該当する人を選択することで、自動で相手にビデオ会議コールが行える。

メニュー選択で接続した相手がさらにそこから別のところへとビデオ会議コールを転送することも可能で、たとえば、

企業役員へのビデオ会議コールをまず秘書が受けて、その後その役員へリモコン操作で転送するということもできる。

電話帳検索機能は、タンバーク社の TANDBERG Management Suite(タンバークマネージメントスイート)システムが管理する電話帳データベースと連動、TANDBERG Entrypoint は、TMS のデータから電話帳情報を参照し、画面上に表示する。

メニューはカスタマイズも可能だ。「初期画面での企業ロゴの挿入、メニュー背景色の変更、あるいは、メニューの追加や削除、アドレス帳の設定などは簡単な操作とキー入力で行える。現段階は英語のみの表示だが、日本語表示は次期バージョンアップ時に対応する。」(タンバーク アジア パシフィック インフラストラクチャ・プロダクト・スペシャリスト 谷口智則氏)

ネットワークインターフェイスの部分については、TANDBERG Entrypoint は、BRI(NTT の INS64 相当)を4回線、E1/T1/PRI(NTT の INS1500 相当)を1回線収容可能。BRI を4回線使用した場合は、最大で8つの H.324/PSTN(一般回線)対 H.323/SIP 通話を同時サポート。E1/T1/PRI を1回線使用した場合は、最大で30の H.324M/対 H.323/SIP 通話をサポート。

音声ゲートウェイ、3G ゲートウェイ機能も内蔵するため、ビデオ会議端末だけではなく、一般の電話機や 3G テレビ電話からも接続が可能だ。3G テレビ電話では視覚的にメニューが表示されるが、電話機からの接続では、音声ガイダンスによるメニューを提供する。

さらに、タンバーク社の「TANDBERG Border Controller」「TANDBERG GateKeeper」を組み合わせると企業イントラネット外部の H.323 や SIP 準拠のビデオ会議端末から TANDBERG Entrypoint へのアクセスや、「TANDBERG MPS Gateway」と「TANDBERG Gatekeeper」を組み合わせると、H.320 のビデオ会議端末からのアクセスも可能になる。

NTT 東西、無線 LAN に対応した家庭向け IP テレビ電話発売



フレッツフォン VP100

東日本電信電話株式会社(東京都新宿区、以下 NTT 東日本)と西日本電信電話株式会社(大阪府大阪市、以下 NTT 西日本)は、SIP に対応した家庭向け IP テレビ電話「フレッツフォン VP100」(以下、VP100)を3月中旬より発売した。

VP100 は、NTT 東西がこれまで提供してきたフレッツフォンシリーズ「フレッツフォン VP1000」(平成16年9月発売、59,800円)、「フレッツフォン VP1500」(平成18年4月発売、79,800円)に続く、3つ目のモデルになる。価格は、従来モデルの半額以下に抑え、より購入しやすい 28,000 円にした。

デザインや操作性の面においても、一般電話機と同様にテレビ電話を利用できるようなハンドセット(受話器)や、ワンタッチダイヤルやメニューなどの各種操作ボタンなどを採用しているため、電話をする感覚でテレビ電話が簡単にできる。また、ハンズフリー通話にも対応している。

VP100 は、CMOS 30 万画素のカメラを採用し TFT 5.7 インチ液晶ディスプレイを搭載。音声と映像による留守番電話機能を持つ。本体のメモリに最大 5 件の音声メッセージが保存できるとともに、本体の背面にある USB(2.0)端子に 32MB 以上の USB メモリを接続することで、テレビ電話利用時に最大 12 件の映像付きメッセージが保存できる。

通信プロトコルは、SIP を採用している。映像符号化方

式には、MPEG4 を、音声符号化方式には、G.711 をサポート。通信帯域は、128kbps、384kbps、512kbps、1Mbps に対応。

対応ルータや ONU と有線ケーブルで接続して利用 LAN ポート(10/100Mbps)端子を持ち、PPPoE、UPnP(NAT トラバーサル機能)に対応。また、PCMCIA カードスロットにオプションで準備している専用の無線 LAN カードを接続することで VP100 をワイヤレスでも使うことが可能。

VP100 に関連したサービス面では、NTT 東日本が提供する「FLET'S.NET ナンバー」及び NTT 西日本が提供する「フレッツ・光プレミアム/フレッツ・v6 アプリ」のテレビ電話機能に対応。

ひかり電話で VP100 を利用した場合、NTT ドコモの FOMA との間でテレビ電話が可能な「ひかり電話」や、ASAHI ネット、BIGLOBE、WAKWAK、ぶらら、プロバイダ一各社が提供する IP テレビ電話サービスにも対応。

本体サイズは約 248(幅)×224(奥行)×67(高)mm。重量は約 1.6kg。

販売予定としては、NTT 東西各社年 5,000 台、計 10,000 台の販売を見込む。

SOBA プロジェクト、SOBA フレームワーク 3 のライセンス販売開始

株式会社 SOBA プロジェクト(京都市下京区)は、P2P 型 ビジュアルコミュニケーションシステム開発者向けの「SOBA フレームワーク 3」のライセンス販売を 3 月 30 日から開始した。

2002 年-2004 年の産官学協同研究の成果を母体とした国産のミドルウェア技術。ソフトウェア開発ベンダーは、SOBA フレームワークによって提供されるコミュニケーション機能を活用し、それを応用あるいは、自社製品へ組み込み、既存システムと連携したシステム構築などが行える。

SOBA フレームワーク 3 の特徴としては、(1)映像、音声、テキスト、あるいは Windows アプリケーション共有開発を簡単に行える枠組みを提供、(2)専用サーバを不要とする

P2P(ピアツーピア)方式の多対多による通信形態を実現。

(3)Windows、Linux などのマルチプラットフォームに対応、(4)カスタマイズによるアプリケーションの機能改良、オリジナル機能追加、(5)256 ビットの暗号化強度をもつセキュリティ機能、(6)DV (IEEE1394)カメラ映像に対応、(7)ファイアーウォール環境でもセキュリティを確保した通信が可能。ただし、SOBA データ用中継サーバを利用設置する必要あり。



SOBA フレームワークアーキテクチャ

SOBA フレームワーク 3 の技術をコアにした製品として、同社からはすでに ASP サービスによる「SOBA mieruka(ソバ・ミエルカ)を 2006 年 12 月にサービス開始している。

ライセンスは年間ライセンス契約となり、1ライセンスあたり 100 万円(税別)より。製品構成は、SOBA フレームワーク一式、サンプルアプリケーションのバイナリ、各種ドキュメント一式。年間保守は別費用になる。



SOBA mieruka

販売目標は、販売開始後1年で 100 セットを目標としている。また、別途受託開発も受ける。

(関連記事:CNAレポート・ジャパン Vol.9 No.7 2007年3月15日号)

日本テレプレゼンス、テレプレゼンス型同室感ソリューションを発表



Telescape(テレスケープ)

日本テレプレゼンス株式会社(東京都新宿区)は、NTTコミュニケーションズ株式会社(東京都千代田区)が提供する高品質映像コミュニケーションシステム「WarpVision(ワープビジョン)」を採用したソリューション「Telescape(テレスケ

ープ)」を昨年より販売開始。

Telescape は、遠隔地との映像コミュニケーションにおける同室感に工夫をしたソリューション。ソフトウェア型のソリューションで、大型のスクリーン、プロジェクタ、スピーカー、カメラ、マイクを組み合わせ、相手を大きくクリアな映像で表示させ、高品質な音声を提供する。映像と音声による会話だけではなく、資料・アプリケーション共有、そして最大5カ所までの多地点接続も可能。

「当社の Telescape は、ソフトウェア型ではあるが 24 時間 x 5 日の 120 時間連続稼働テストをクリアしており、安定性は非常に優れている。すでに本田技研工業様で運用稼働しており、ビジネスオフィスだけではなく工場や試験場などの現場でもご利用いただいている。」(日本テレプレゼンス代表取締役社長 菊谷 嘉氏)

基本構成は、WarpVision インストール済みのオフィス用 PC、カメラ、マイク一式ハードウェアラック kit「一景さん」と、「Telescape ベーシックタイプ」の組み合わせになる。それに加え、必要に応じて、スクリーン、液晶・プラズマディスプレイ、プロジェクタ、マイク、音声ミキサなどをシステムインテグレーションして提供する。

一景さんの構成は、(1)特殊静音仕様のラックマウント 4U タイプにワイヤレスキーボード&マウス、(2)リモコン式カメラ EVI-D100(組み付けポール及び取り付けアーム込み)、(3)音響機器(2ch スピーカー/USB 接続小型バンドリマイク x2)、(4)小型ラック(W600mm x H600mm x D500mm、電源ユニット他付属)、(5)ケーブル類(各種 10mまでの特注対応含む)

Telescape ベーシックタイプは、固定料金で、共用 SIP サーバを使用。オンラインやオンサイトのサポートなども付く。月額 30,000 円/箇所(税抜き)。

また、一景さんのシステムを使用せず、WarpVision 技術をベースにカスタマイズで映像コミュニケーションシステムを構築する場合は、「Telescape SIタイプ」を選択することになる。費用は別途見積もりとなる。

「当社の Telescape もお客様導入にあたっては、システム

インテグレーションから導入、そして運用までトータルにサポートする。高品位な映像と音声ながら低コストで導入できるとしている。当社は昨年2月に設立され、Telescapeを発売した。現在は、国内外の販売パートナーの開拓を積極的に行っている。」(同 菊谷氏)

プレミアム グローバル サービスに、前 MCI ジャパン ゼネラル・マネージャー就任

企業向けデータ通信サービスのエクスパダイト株式会社(東京都港区)と電話会議・Web 会議サービスを提供するプレミアムコンファレンシング株式会社(東京都中央区)は2007年1月下旬、アンソニー・リチャードソン氏が両社の代表取締役役に就任したと発表した。

同氏は、米 Premiere Global Services 社アジア太平洋地域マネージング・ディレクター デニス・チュー氏に直属となる。

リチャードソン氏は、現職就任前、MCI Japan(現ベライゾンジャパン)のゼネラル・マネージャー。また、ノーテルネットワークスのマネージング・ディレクター、Sprint Japan (現 Global One)、Telemedia International にて、カンントリー・マネージャおよび社長を歴任し、通信業界において20年以上のキャリアを持つ。

エクスパダイトとプレミアムコンファレンシング両社は、「プレミアム グローバル サービス」ブランドでビジネスを展開。東京本社は、今月3月に、江東区塩浜から中央区新川へ移転した。

ポリコムジャパン、VSX シリーズがシスコ SCCP プロトコルに対応

ポリコムジャパン(東京都千代田区)は、Polycom VSX シリーズビデオ会議システムのソフトウェアの新しいバージョン「Polycom VSX バージョン 8.6」を発表。

新バージョンでは、シスコシステムズの Skinny Client Control Protocol(SCCP)プロトコルをサポートし、シスコの「Cisco Unified CallManager(バージョン 4.1 以降)」による

IP コミュニケーション基盤「Cisco Unified Communications(シスコ・ユニファイド・コミュニケーション)」に対応する。

これにより、Polycom VSX シリーズは、シスコの IP コミュニケーション環境下で、設定、管理、呼制御が一元化されるとともに、ダイヤルプランとディレクトリーサービスが統一可能、転送や保留などのテレフォニー機能が使用できる。SCCP はソフトウェアアップグレードにて対応。

SCCP とは、米シスコシステムズ社が独自開発した呼制御プロトコル。

ウェブエックス、米 Elearning Magazine 誌のベスト・オブ・E ラーニング 2006 アワードで受賞、日本国内の遠隔教育でも採用進む

ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン株式会社(東京都港区)の発表によると、米国において同社のアプリケーションが Elearning Magazine 誌の「Best of Elearning! 2006 Awards(ベスト・オブ・E ラーニング 2006 アワード)」において、ベスト・バーチャル・クラスルーム賞とベスト Web セミナー・ソリューション賞を受賞。

ベスト・バーチャル・クラスルーム賞に選ばれたのは、WebEx の E ラーニング向けアプリケーション「TrainingCenter(トレーニングセンタ)」。

ベスト・バーチャル・クラスルーム賞には、Web 会議向けアプリケーション「MeetingCenter(ミーティングセンタ)」。

日本でも遠隔教育向けで同社のアプリケーションの導入が進む。ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパンによると、最新の事例としては、名古屋大学、南山大学、愛知県立大学、静岡大学の4大学及び連携6企業産学協同教育プロジェクトの一環として、各大学院の修士課程に開設される IT スペシャリストコースの遠隔授業に TrainingCenter の採用が決定したという。

ショートニュース項目

【海外 news】米シスコシステムズ社は、米 WebEx Communications 社を、32 億 USD(約 3,770 億円)で買収合併することで正式合意した。両社から発表されたプレスリリースによると、買収は公開買付(1株あたり57USD)により行われ、シスコシステムズの 2007 会計年度第四四半期(2007 年 7 月末)中に完了する予定。WebEx は今までのビジネスモデルを維持しながらシスコシステムズの開発組織に統合されるが、WebEx CEO Subrah S. Iyar 氏はそのまま在籍し、最高開発責任者 Charles Giancarlo 氏の直属となる。

【海外 news】イギリス Codian 社の HD 対応多地点接続装置「MCU 4500」が、今年 3 月に米ワシントン DC にて開催された政府機関向け専門 IT 展示会 FOSE 2007 (<http://www.fose.com/>)で、「Best of FOSE 2007」賞を受賞。選考は、Government Computer News(GCN)誌と Washington Technology 誌の編集委員が行った。会場では、MCU 4500 のHDビデオ会議システムのデモンストレーションを行った。

【海外 news】イギリスの Oldham Metropolitan Borough Council(グレイターマンチェスター州オールドハム自治区議会)は、HD に対応したビデオ会議システムを、遠隔授業目的でオールドハム地区の教育関係各所 120 箇所を導入を決定した。多地点接続装置には、英 Codian 社の HD 対応の「MCU 4500」と、端末には、LifeSize 社の HD 対応ビデオ会議端末「LifeSize Team(ライフサイズチーム)」を設置する。小中高や専門学校、オールドハム自治区議会などを結び学生間の交流や専門家による授業などを通して教育の現場における学びの環境の向上を図る。

業績発表 2006 年 10 月-12 月期

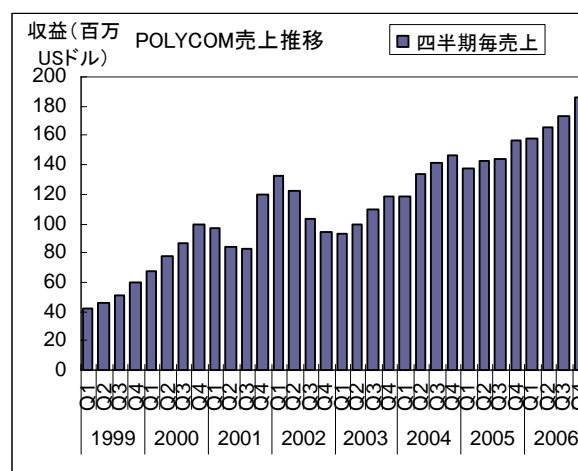
*Nasdaq 等上場企業の 2006 年第四四半期(10 月-12 月期)の業績発表をベースにレポート。

ポリコム(米)

米ポリコム社(日本法人:ポリコムジャパン株式会社、東京都千代田区)の第四四半期の業績発表によると、1 億 8650 万 USD(前年同期 1 億 5610 万 USD)、通年では、6 億 8240 万 USD(前年 5 億 8070 万 USD)と過去最高の売上を記録した。

四半期におけるビデオ会議システム(VSX シリーズなどのグループタイプ機種)が過去最高の 17,394 台、また PC 向けビデオ会議ソフトウェア PVX のライセンス販売数が 11,998 シートライセンスを出荷した。

「今回の記録的な売上の背景には、アジアでの顕著な売上の伸びとともに、欧州、ラテンアメリカ、北米とそれぞれの地域での販売はグローバル全体的にみて期待以上の成果が出たことが挙げられる。」(最高財務責任者(CFO) Michael R. Kourey 氏)



売上にしめる IP 関連の販売は、全体の 64%に達し、IP への移行がグローバル的に見ても本格化している。その中で音声関連の製品は、前年比 34%の伸び、ビデオ会議関係は、24%の伸びを示し、この基調は、2007 年も続くと同社

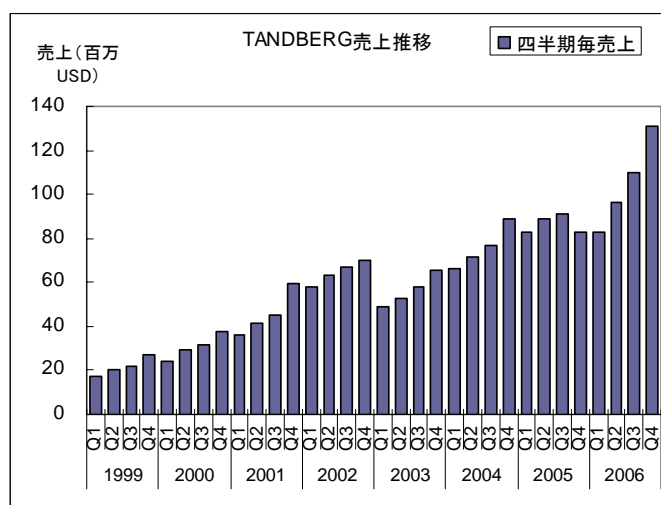
では見ている。

VSX シリーズの販売は堅調の中、HD に対応した HDX 9000 シリーズの引き合いについても、「従来の既存の顧客や、新しい顧客では医療や教育系を中心に需要が見えてきたが、全体的にも反応は良い。第四四半期の売上にも貢献した。」と同社の業績発表で CEO Robert Hagarty 氏はコメントする。

テレプレゼンスソリューションの強化の一環として Destiny Conferencing 社を買収したが、今後のテレプレゼンスソリューション関連の事業にも期待を見せる。RPX に使われているコアのコーデックは、HDX 9000 シリーズという。「HD だからといって“膨大な帯域”を使うというわけではない。MPEG2 などを使った同様なテレプレゼンスシステムは 10Mbps などの大きな帯域を使うが、当社の HDX 9000 シリーズは 1Mbps 程度で同じ HD のクオリティが可能であり、企業の帯域問題にも経済的に対応は可能と思っている。」(同 Hagarty 氏)

今後 HDX シリーズのラインナップの強化を CEO Hagarty 氏は説明するが、SD 系(HD に対応していない従来のビデオ会議システム)への機能や性能強化も続けていく考えを示した。

TANDBERG (ノルウェー)



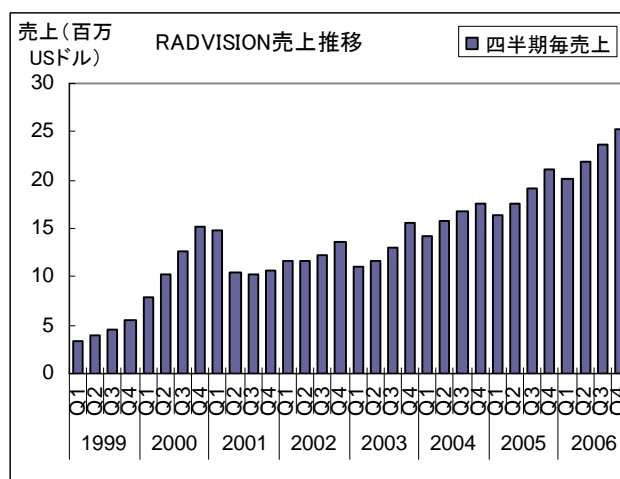
ノルウェーのビデオ会議システムメーカー大手タンバー

グ社(日本法人:日本タンバーグ株式会社、東京都港区)の2006年10月-12月期の業績結果が発表され、売上は過去最高の1億3080万USD(約 円)を、また出荷台数は、12,744台と過去最高の台数を記録した。

2006年通年での売上は、4億1970万USD、前年の3億4520万USDに比較し57.8%と大幅に増加した。出荷台数においても、前年の32,618台から23%の増加となる、40,118台。

地域別では、南北アメリカ地域での売上は、6,890万USD(前年同期4480万USD)、欧州・中東・アフリカ地域では、5,150万USD(前年同期2,950万USD)、アジア太平洋地域は、1,040万USD(前年同期840万USD)。北米では企業向けが好調で、連邦政府向けで大口導入も決まった。欧州中東アフリカ地域では、特に北欧とイギリスでの大きな成長を達成。アジア太平洋地域では、南アジアとオーストラリアとともに、日本を含む北アジアでは期待通りの実績を上げた。

RADVISION (イスラエル)



イスラエルのラドビジョン社(日本法人:ラドビジョン・ジャパン株式会社、東京都新宿区)の第四四半期は、2,530万USD(約29億8000万円)。2007年通年では、9,100万USD(約107億2000万円)。過去最高の売上を四半期、通年とも達成した。

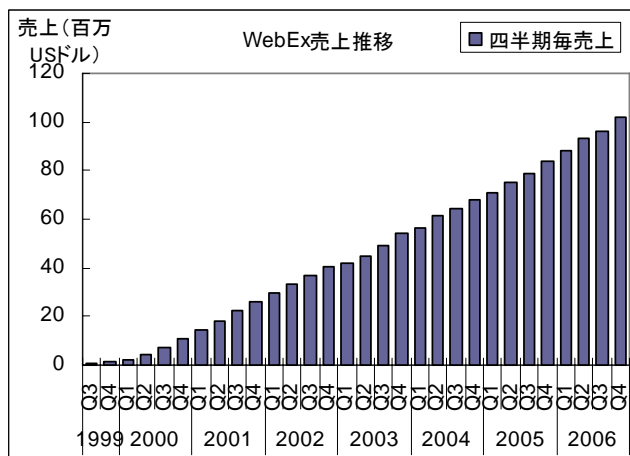
同社の事業は、MCU などの製品事業部門である NBU 部門、技術ライセンスなどの TBU 部門の2つがあり、NBU の今四半期は、6,681.7 万 USD(約 78 億 7000 万円)、TBU は、2,420 万 USD(約 28 億 5100 万円)。

地域別の売上構成は、北米が全体の 59%、欧州中東アフリカ地域が 24%、アジア太平洋地域が 17%。

WebEx Communications (米)

米 Web 会議サービスの大手 WebEx Communications 社の第四四半期は、1 億 190 万 USD(約 120 億円)。1 億 USD の大台に四半期売上としては初めて乗り、8 年間売上は常に右肩上がりであり上昇を続けてきた。通年では、3 億 8000 万 USD(約 448 億円)。北米以外の国際事業からの売上は全体の約 15%。北米の売上だけで 85%を占めることになる。

売上の 74%は、サブスクリプション(サービス利用契約を結び毎月の月額定額使用料を払っているユーザー)による売上。残りは、ペーパーユース(使用に応じての従量課金ベースユーザー)。



法人ユーザー社数は、四半期に 1,200 社増え、28,000 社になった。使用ユーザー数は、四半期に 13 万 9000 人増え、220 万人を越えた。同社の業績発表で同社 CFO Mike Everett 氏は、一人あたり月額 15.5USD(約 1,825 円)を支払っている勘定になると説明する。

イベント情報

WR Collaboration Summit 2007, Berlin, Germany

会期:4月23日、24日、25日
会場:The Steigenberger Hotel(ドイツ、ベルリン)
主催:Wainhouse Research, LLC
詳細:<http://www.wainhouse.com/berlin07/>

VoiceCon Spring 2007

会期:5月5日-8日
会場:Gaylord Palms Hotel, Orlando FL
(アメリカ、フロリダ)
主催:CMP Media LLC
詳細:<http://www.voicecon.com/spring/>

The Collaborative Communications Summit 2007

会期:5月17日-18日
会場:Ritz Carlton Hotel(アメリカ、ワシントンDC)
主催:The Collaborative Communications Summit
実行委員
詳細:<http://www.ccsexpo.com>

編集後記

米シスコシステムズの WebEx 買収は、32 億 USD(約 3,770 億円)は、eBay の Skype 買収(26 億 USD)、グーグルのユーチューブ買収(16 億 5000 万 USD)以上で、グローバルの会議システム市場(電話会議、テレビ会議、Web 会議全体)の規模とほぼ同じくらいの金額になります。

会議システム業界の中での買収は、マイクロソフトのプレイスエア社の買収(約 2 億 USD)を筆頭に、過去にもいくつかありましたが、この金額は全く桁が違う買収金額です。会議システム業界史上最高です。

これだけの金額の投資がこの業界で行われたということは、今後、会議システム業界自体への注目と関心の高まりから、人や技術や資金がさらに集まる可能性が高く、さらなる市場の成長が期待できるのではないかと思います。

CNAレポート・ジャパン 代表 橋本啓介